

## 団長あいさつ

24回目となる平成29年度中学生ビクトリア市研修も、9月から11月という長期にわたる研修となりました。

まずは、中学校生活の傍ら積極的に準備に取り組んでくれた研修生たちの労をねぎらうとともに、この研修事業を支えていただいた三浦理事長をはじめとした盛岡国際交流協会の皆様、谷藤盛岡市長様、協賛していただいている㈱アート不動産様に心からお礼を申し上げます。

また、団長である私には、この研修を成功に導いてくれた心強い仲間がいました。素敵なお研修をプロデュースし、現地では良きお姉さんとして精神面のサポートも担ってくれた十和田智子さん、学習面、生活面を一手に引き受けてくれた高橋龍平先生、陰に日向にサポートしてくれた人間味あふれる櫻井大介さん、感謝の言葉しか見つかりません。

ビクトリア市での研修においては、リサ・ヘルプスビクトリア市長やビル・マクレディ友好協会会長夫妻などお世話いただいた皆様の温かさに触れながら、姉妹都市交流の足跡を訪ねるとともに、ビクトリア市庁舎の訪問、ゴードンヘッドミドルスクールでの授業参加、そしてホームステイ先での歓待と短期間ながら実に充実した滞在となり、カナダでのクライミング合宿

のため16人目の研修生として参加した伊藤ふたばさんの存在も友情を深めるものとなりました。

16人の若き冒険者たちは、この初めての異国の地で、バリエーションに富んだ授業、カナディアン心を一気につかんだプレゼンテーション、正に異文化のホームステイ、そして本場のハロウィンを共に過ごし、お互いを思いやることができれば、「異文化、でも同じ、分かり合える」ということを肌で感じる事ができたと思います。

私たち4人は、彼らの成長に目を見張り、その堂々たる振る舞いに誇りすら感じました。何よりの収穫は、勇気と好奇心、友情に満ちた研修生たちの人生のターニングポイントに立ち会えたことです。将来を担うこの若者たちの貴重なひと時を共に経験させてくれたことに、改めて「ありがとう」の言葉を贈りたいと思います。

最後になりますが、盛岡、ビクトリア両市の交流を30年以上の長きにわたり支え、慈しみ、育てていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます、本研修の団長としての挨拶とさせていただきます。

第24回中学生ビクトリア市研修  
団長 伊瀬谷 渉

## 中学生ビクトリア市研修のあゆみ

盛岡市内の中学生が、カナダのブリティッシュ・コロンビア州の州都であるビクトリア市を研修で訪れるようになったきっかけは、1985（昭和60）年の姉妹都市提携です。

教育者で、国際連盟の初代事務次長を務めた新渡戸稲造博士が、盛岡で生まれ、ビクトリア市で最後を迎えたことがきっかけとなり、両市は姉妹都市提携を結びました。

以来、様々な分野で相互交流を深めてきましたが、国際化時代にふさわしい人材の育成を目指そうと、平成5年度から中学生の派遣研修が始まりました。

平成10年度と平成13年度は諸事情により海外派遣研修が中止となりましたが、これまでに、今回の研修団員を含む327人の中学生がビクトリア市を訪問しています。

この研修は、ビクトリア市の中学校での授業体験やホームステイでの生活体験等を通して、次世代を担う子どもたちの豊かな国際感覚を養うとともに、姉妹都市交流を促進する上で、大きな役割を担っています。

## 未来へつなげる力を磨くために

盛岡市立大宮中学校

江川 七海

「大切なのは、気持ちです。伝えようという気持ちがあれば、言葉は人に伝わります。」この言葉は、出発前、言葉が伝わるか心配だった私に、学校の先生がかけてくださった言葉です。最初は、本当に気持ちだけで伝わるのかなあ。とあまりこの言葉を信じではありませんでした。ですが、この言葉の意味をカナダ ビクトリアに行き、理解しました。

最初、空港に着いたときは、とても不安で、初めての海外ですから、とても緊張しました。周りは全部、英語だらけで、残り1週間が不安と期待でいっぱいでした。1日目と2日目は主に、ビクトリアなど多くの名所を散策し、盛岡とのつながりやカナダの歴史についてまなぶことができました。たいへん興味深く、どの場所からも文化交流のよさを感じました。

文化交流のよさは、ホスト校での生活からも感じることができました。日本の授業では、ありえない光景が広がります。始業終業のあいさつがなかったり、おかしやジュースを飲みながら授業したり、自由すぎて驚きばかりでした。自由すぎて、生徒はしっかりしていないのかと思ったら、その逆で、とても自主性に優れ、自ら選び、自ら行動している生徒ばかりでした。プレゼンテーションでも、みんな明るく、とても楽しいひと時でした。

研修中に最も大変だったのは、ホストファミリーとの生活でした。伝えたくても、伝わらないことばかりで、とても苦労しました。でも、伝えたいと思うから体は動き、電子辞書で英文を調べて伝えと、ホストファミリーに気持ちを伝えることができました。とても嬉しかったです。これが、学校の先生が言っていたことなのかと実感しました。

これからの生活でも、自ら自主的に行動し、相手に気持ちを伝えていけるよう心がけていきたいと思います。そして、自らの目標に向けて、日々1歩ずつでも成長出来るように勉強していきたいです。今思えば、あっという間な1週間でしたが、とても長い1週間だったように感じます。来年そして、再来年と多くの研修団がこの研修で、国内、もしくは世界へ羽ばたく人材になることを願います。ありがとうございました。



研修を終えて

## Excellent and Perfect

岩手大学附属中学校  
鎌田 思

10月28日に日本を出発し、カナダビクトリア市に到着するまでは、ものすごい高揚感と不安感であったという間でした。しかし一方で、ビクトリアでの新しい出会いと自分の英語力を試せることへの期待もしていました。

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、12歳の男の子と9歳の女の子の4人家族でした。中でもお母さんの Deanna さんには、学校までの送迎をしてもらったり、夜寝る前に2人でハーブティーを飲みながら日本での生活等について語ったりして、本当にお世話になりました。お父さんの Jamie さんは、沢山しゃべる方ではなかったけれど、いつも気遣ってくれる優しい方でした。お兄ちゃんの Braden 君とはゲームをしたり映画をみて沢山お話しをして、妹の Kayla ちゃんとはどこかへ出かけた時に手を繋いで、その場所の説明をもらいました。うまく話せないこともあったけど、ジェスチャーやホストファミリーの説明で、すごく助けられたと思います。

そして、私は今回の研修を通し、大好きになった英単語があります。それは、「Excellent」と「Perfect」です。どちらも私のホストマザーが私の話を聞いた時に言っていた言葉ですが、私を褒めてくれる時や持ち物を指差し確認するときに使いすぎじゃないか、と思うぐらい使っていました。私が理解できるように、わかりやすく話してください（運転中は手のジェスチャーが多くてヒヤヒヤしたけれど）大切な思い出を作ってくれた Deanna さんの言葉が私は本当に大好きです。いつか必ずビクトリアを訪れてお礼がしたいです。

最後に、私は日本を離れ、日本と違ったビクトリアの文化に触れ、新しい体験を通して沢山の新しい考えを吸収できたと思います。資料だけではわからない、正しくて新鮮な印象や知識を学ぶことができました。「百聞は一見に如かず」というように、なんでも自分で確かめるために遠慮をしてはいけないう、これからは後悔のない様に行動したいと考えるようになりました。

そして、このような素晴らしい体験をさせてくれた 15人の研修メンバー、事務局の方々、家族に本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 海外への思い

岩手大学附属中学校  
鎌田 朋乃加

“外国の文化を学びたい”。そんな気持ちでチャレンジしたビクトリア市研修。私はこの研修を通して、多くの仲間と出会い、多くの学びを得ました。

事前研修1回目・とても緊張し、でも研修への楽しみな気持ちをもちつつ、研修にのぞみました。そこで出会った 14 人の仲間、1回目はなかなか仲良くなるのに時間がかかったが、2回目、3回目と研修を繰り返すうちに友達になり、研修を進めました。この 15 人でカナダに行くと考えると気持ちが舞い上がりそうなくらいでした。

そして、出発の日。私はカナダに行くことをとても楽しみにしていました。私にとっては初めての海外。初めての体験に心躍りました。カナダに着いたとき、あまり実感がわかず、周りの看板が英語だけであることと周りの人が知らない言語を話すことにカナダに来たのだと実感させられました。私が1番カナダで楽しかったこと、それは現地学校での生活です。イスも机も自由に使っていて、1日2回はリフレッシュタイムがあるといった初めての体験にとっても刺激を受けました。また、ハロウィンの日には学校にも仮装していくというこれもまた初めての体験を存分に楽しみました。その楽しさの中にも、生徒の積極性を高めるために生徒自信に考えさせるグループワークを取り入れたり、学校への満足感が味わるよう、クイズなどを取り入れたりと1つ1つの授業内容に興味があることを日本との違いを通して感じました。

2度の事後研修を終えて、今思うことは、“この研修に参加して良かった”という満足感です。日本では絶対に体験することができなかったことを多く経験させていただくことができました。この体験をとおして、私の海外への思いは、研修前よりもより一層強まりました。将来は、様々な国の人々と交流し、外国の文化を学び、自らが日本の文化を自分の習っている剣舞で発信し、両方の国の交流のかけ橋の一部となれたらと思います。そして、そのような活動の第一線に立てる人材、職に就きたいと思います。

最後に一緒に研修した研修団の皆、支えてくれた保護者の方々、貴重な経験をありがとうございました。



## 研修を終えて

### 忘れられないあの一時

盛岡市立厨川中学校

木内 淳平

ビクトリア研修。それは一生忘れることの無い、私の財産です。

始まりはスピーチコンテストからでした。「カナダという未知の場所へ行き、外国の事について学びたい」その思いで参加しましたが、制限時間を過ぎ、それで焦り、早口でスピーチを終えてしまうという最悪という他無い発表で、不合格を確信していました。だから、合格と発表された時は、まるで夢を見ているようなほどに信じられず、喜びをかみしめました。

この研修が私にとって初めての海外でした。飛行機から降りると、周りは英語だらけで景色は日本とどこか違っていて、不思議な感覚でした。ビクトリアに到着してすぐ、ホストスクールに行きました。そこで出会った先生、生徒達はとても優しく、つたない英語しか話せない私にも「一緒に遊ぼう」「これの使い方分かる？」など声をかけてくれてカナダの人々の温かさを感じました。

ホームステイ先の家に行った時にはまず、日本では有り得ない程に大きな家を見て驚きを隠せませんでした。また、ハロウインの時には人の家に行ってお菓子をもらうという、外国の文化に触れることができました。また、私の買いたいものがある店が見つかるまで沢山の店に連れて行ってくれたり、毎日手作りのごちそうを食べさせてくれたりした、ホストファミリーはかけがえのない大切な存在となりました。

ビクトリアでの楽しい生活はあっという間に過ぎ去り、お別れの日。ホストスクールで出来た友達、ホストファミリーに手を振り、バスに乗車した時、思わず涙がこぼれ落ちました。「必ず戻って来よう」それだけを考えて涙をぬぐい、私はカナダを離れました。

研修を終えた今でも、あの一週間の一時を忘れる事はありません。「またカナダに行きたい」この願いをあのスピーチコンテストの時のように叶えてみせます。

最後に、お互いに助け合い、研修をとおして絆を結んだ15人の仲間。最高の思い出をありがとう。また、私達を楽しませながらもしっかりと正しい方向に導いてくださった先生方。本当にありがとうございました。この研修で得た財産でこれから先に出会うであろう高い壁をこえていって、またカナダへ降り立ちます。あの一時がもう一度よみがえるように。

### 太平洋を渡って

盛岡市立厨川中学校

斎藤 菜々子

バンクーバー港から約1時間半。ビクトリアの空気を吸い込んだとき、私はやっと外国に来たことを自覚しました。初日は何もかもが目まぐるしく走り去り、また、寝不足のせいもあってか、ずっと夢の中にいるような気分だったからです。

私が研修の中で一番印象に残っていることは、学校での生活です。学校での最初の日、私達はプレゼンテーションを行いました。クイズは大盛り上がりで、プレゼンをしている私達まで楽しくなりました。また、みんな関心を持って聞いてくれているので、話がいがあるなと思いました。クラスメイトは仲が良く、積極的に話しかけてくれました。学校は全体的に自由で、私服はもちろん、お菓子を食べたり、音楽をかけながら授業をしたり、海外ドラマそのものでとても楽しかったです。私は、帰国して自分の学校に戻ってから、日本の学校はどうしてこんなに規則があるのだろうと思いました。日本の学校も外国のように、もっと自由でも良いのではないかと、新たな視点に立って考えられるようになりました。

また、ホームステイの経験も私は印象に残っています。私のホームステイ先の家にはルールがたくさんあってとまどうことが、たくさんありました。ホストマザーのクリスティーナは困ったことがあると、いつも笑顔で話を聞いてくれて、ホストファザーのブライアンはいろいろなところで気づかせてくれました。娘のブルックちゃんとは、一緒にジャックオーランタンを作ったときに、いろいろ話すことができました。誕生日プレゼントをあげたとき、とても喜んでくれて、そのときの笑顔は今でも忘れられません。ホームステイでの生活は、大変なことが多かったけれど、今思えば、とても貴重な体験ができたのだと思います。

私は将来外国で働きたいと思っています。実際に外国で生活して、言葉の壁は自分が想像していたものより低いけど、夢を叶えるには、もっともっと努力が必要だと思いました。そして、英語を話せるようになるだけで、自分の世界も大きく広がることを身をもって知りました。私の人生の分岐点になった今回の研修は、私の一生の財産です。

“もうおわりか…”を“始まりに”

盛岡市立厨川中学校  
佐々木 宙

「はあ、もうおわりか…。」盛岡について新幹線からおりたとき、眠いながらもそう思ったのを覚えています。そのくらい本当にあっという間で充実した研修でした。

僕は何度か海外に行ったことがあったので、英語には多少自身がありました。だからクラスに入る直前もあまり緊張はしませんでした。と言いたいんですけど、心のどこかでだいぶ緊張していました。(笑)こんな感じで始まったホストスクールの生活でしたが、困った時にはメキシコから来ている女の子がびっくりするくらい丁寧に1つ1つ教えてくれてとても助かりました。また他のクラスメイトも積極的に遊びに誘ってくれたり、名前を呼んでくれたりと、僕を1人のクラスメイトとして迎えてくれたことがとても嬉しかったです。専門用語をふんだんに使い、ものすごいスピードで説明される理科の授業では、同じクラスに入った淳平君と必死に電子辞書を使い、ノートに書いていくことで、何とか乗り越えることができました。また、体育の授業や休み時間の卓球、サッカー、バスケなどをとおしてより仲が深まり、廊下であったらハイタッチするようになりました。一番びっくりしたことは、ハロウィンの日に先生も生徒もみんな仮装して学校に来ることです。「日本にもこんなハロウィンあったら楽しいだろうな…。」と思いました。

書きたいことを書いてみたら書ききれなかったホストスクールでの話についてホームステイではまず、「これ家!?!」と思うほど大きな家にびっくりしました。また、ホストファミリーは本当に親切で、毎朝起こしに来てくれたり、英語を教えてくれたりととてもフレンドリーに、優しく接してくれたおかげで、思いっきり楽しむことができました。ホストファミリーの3人の孫とサッカーとトランプをしたこと、ハロウィンと一緒に過ごしたことが1番の思い出です。

そして日がたつにつれ嫌になっていたお別れの日…。ホストファミリーと別れるのも、クラスメイトと別れるのも本当に悲しかったです。もう一回戻ってきたいなあと思うほど強く思いました。

この研修で学んだことは、英語が分からない中でも相手に自分の事を伝えようとする、相手の伝えたいことを理解しようとする事の大切さです。

新幹線をおりた時におもった“もうおわりか…”を“始まり”にできるように、国際交流をはじめとする様々なことにチャレンジし、これからも自分の新しい可能性を広げていきたいです。本当に貴重な経験ができました。ありがとうございました。

最高の仲間

盛岡市立北松園中学校  
千田しえる

「あー、楽しかった。」私がカナダから帰国して初めに思ったことはそれだった。8日間の研修、事前・事後研修は、私にとってすべて楽しかった。

思い返せば、スピーチコンテストで選ばれてから、けっこう経つまで私はずっと遠慮していた。なぜなら、1つは周りが先輩だらけだったこと、2つは自分に何ができるのかという不安だった。そのころまで、研修メンバーの皆は、私が大人しい2年生だと思ってたかもしれない。今は、全くちがうけれど。

カナダでの思い出は、多すぎてえらべないけど、ぜひ伝えたいと思う。

まず、行きの新幹線、成田エクスプレス、飛行機。まだお互いに緊張していたけど、楽しかった。カナダに着いてからは、街にある物や人、建物まで新鮮でおしゃべりすぎて、おもしろくて、満喫しているうちにどんどん時間は過ぎていってしまった。バンクーバーからビクトリアまでのフェリーや移動のバスも、ずっと笑っていた。疲れてたときは爆睡だった…。ガイドさんごめんなさい。ビクトリアでは、貴重な体験をたっぷり出来た。やはり、ゴードンヘッドミドルスクールに通えたこと、ホームステイできたことが一番だ。ホストファミリーは優しく、私達の行きたい所に連れていってくれたり、教えてくれたり…もっと話してくれば良かったな、と思う。ゴードンヘッドミドルスクールでは、たくさんの友達もできた。Abby, Maya, Payton, Lucy, Keke, Maiomi…。書ききれないけど、最高だった。ホストファミリー、ホストスクールの皆と別れるのは本当に悲しかった。ありがとう!!!そして、帰りのフェリーに乗って、バンクーバーから日本へ。あのフェリーもおもしろすぎたな。あと、帰りの飛行機も、なぜか行きと同じ2人と。10時間フライトなんてあっという間に終わった。話しすぎて。

私のカナダ・ビクトリア市研修は、一生の思い出。そう言い切れるほど、この3か月間は楽しいことだらけだった。今では、何げないこと1つ1つが思い出になった。ここまで、私たちを支え、フォローしてきて下さった協会の皆さん、有難うございました。感謝ばかりです。ピタゴラス、クレイジー、みんな、本当に本当に本当に本当に本当に愛してます、永遠に、ずっと。

## 研修を終えて

### Continue…

盛岡市立仙北中学校  
千葉 はるひ

10月31日火曜日。目を覚ますと、ブラインド越しに見える青空と、廊下から私の名前を呼ぶホストファミリーの声。慌てて起き上がり時計を確認すると、授業開始20分前。二度寝して寝坊した私はその日、学校に遅刻しました。

こんな私でも今回、カナダで沢山の経験をし、一回りも二回りも成長して帰ってくることができました。日本での研修、カナダでの生活、この研修のすべての活動が、私の考え方や視野を広げるきっかけとなった、最高に充実した時間でした。

事前研修初日、誰も知り合いがいなかった私は、友達ができるのか、楽しんで活動できるのか心配でした。しかしそんな不安はすぐに無くなり、研修を重ねるにつれ、皆と会うのがとても楽しみになっていきました。

そしてあつという間にカナダでの研修へ。一番印象に残っているのはやはり、ホームステイ先や学校での生活です。私のホストファミリーは中国系の家で、女性だけの家族でした。ホストマザーは初日、集合場所を高校だと勘違いして「Sorry～」と言いながら10分程遅れてきたり、なかなか私の名前を覚えられず、「Haruki」とよんできたりする、とても面白い人でした。また学校では、現地の友達がTrick or Treatに誘ってくれたり、おぼけ屋敷の運営をしたりして、カナダの学校生活を全力で楽しむことができました。日本とカナダの女子11人で回ったTrick or Treatは最高の思い出です。

時が過ぎるのはとても早く、あつという間に別れの日。カナダの友達が泣いていて、私もウルッとしてしまいました。ですが帰国後、連絡を取り合えているので、今は次に会える機会が待ち遠しいです。

私はこの研修で、本当に本当に沢山の貴重な経験ができました。カナダの文化を体験できたことはもちろん、英語力も向上でき、何よりも沢山の人の出会いがありました。ホストファミリー、カナダの友達、そして事務局の方々、研修の仲間。皆との出会いで私の世界はとてとても大きく広がりました。皆、本当にありがとう！そして10年後、みんなと再会できるのを楽しみにしながら、次の新しい出会いに向け、これから頑張っていきます。

### この研修が教えてくれたもの

盛岡市立厨川中学校  
中村 佳矢

私は、この海外研修でたくさんの事を学び、書ききれないほどのたくさんの思い出と、たくさんの人とのつながりを得ることができました。

この研修に参加しようと思えたきっかけは、兄の友人がこの研修に参加し、当時小学6年生だった私にたくさんのカナダのおみやげ話を聞かせてくれた事でした。スピーチコンテストではとても緊張したけれど、チャレンジして本当によかったと心から思っています。

研修本番では、初めての海外、初めてのホームステイなど、なにからなにまで初めてで、全てがとても楽しく、魅力的なものばかりでした。出発1日前の朝にホームステイ先が変わり、1人になってしまったホームステイも、家族のみんなが温かくむかえてくれて不安が和らぎました。ホストファミリーは、私のおかしな英語や単語をしっかり聞いてくれたり、ノートとペンを使って私にわかりやすく、色々な事を教えてくれました。ホストスクールでも、分からない所を教えてくれたり、遊びに誘ってくれたりなどたくさんの「優しさ」をもらいました。そして、大切な友達もたくさんつくることができました。カナダに約1週間滞在して、様々な場面で、カナダの「あたたかい心」を体感しました。そんな「暖かい心」を私も持ち、カナダの人たちのような優しい人になりたいと思いました。

そして、私はこの約1週間で、たくさんの景色や人、建物を見ることができました。飛行機の窓から見た美しい空や山々、ビクトリアの美しい港町、日の出が遅いビクトリアの空などを見て一番強く思ったことは「世界はとてとても広い」と純粋にそう感じました。研修に行く前まで、私は小さな事で悩んだり、悲しんだり、足踏みして、自分のちっぽけな世界と価値観にとらわれて生活していました。しかし、この研修をとおして、広い視野で、自分の価値観にとらわれない広い心の自分に成長する事ができました。本当にこの研修は自分のターニングポイントになりレベルUPできました。

最後に私がこんな素晴らしい経験が出来たのは、大好きな研修メンバーと十和田さんをはじめとした、沢山の職員の方々のおかげです。そして、私を研修に行かせてくれた父にも、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。みなさん本当にありがとうございました。これから自分の夢に向かってたくさん学習し、もう1度カナダに足を運べるよう、精一杯がんばります。



## 研修を終えて

### 研修を終えて

岩手大学附属中学校

原田 礼央

ビクトリアで過ごした日々は、驚きばかりの毎日でした。食事の量が多いわ、味は濃いわ(おいしいけど)、学校は自由だったり、日本との違いを身をもって、また改めて感じられた日々でした。

一番最初に全員が集まった時は、少し不安もありました。でもみんなで自己紹介をしたり、英語のクイズをしたりして、すぐに打ち解けてよかったです。そのおかげで、それから先は研修のある日を楽しみにするようになっていました。

現地では、学校に通いましたが、そこでもすぐクラスに打ち解けて楽しく過ごせました。一緒に会話したり、バスケをしたり、遊んだり、パンプキンをつくったりで、毎日楽しかったです。授業も数学は少数の引き算だったり、歴史は意味が分からなかったり、大変なこともあったけどそれらも含めてすべて楽しかったです。

また、ホストファミリーには、毎日必ずどこか観光スポットやイベントに連れてってくれたり、英語でよく分からないけど映画をみさせてくれたりと、たくさんのことを僕たちに体験させてくれました。連れていってくれた先では発見の連続で、本当に楽しかったです。ご飯もおいしかったし、僕たちのことを気遣ってくれて、困ったことがあっても助けてくれたりと、感謝の気持ちと思い出でいっぱいです。

帰国してからは、実際行動したりすることは少なくとも、様々なことに興味をもつようになりました。最初は帰りたくないと思うていたけれど、日本に帰ってきて改めて気付く日本のすごさ、カナダとの違いなど、新たな学びや発見もたくさんあってとても面白かったです。あと、受験が近付いていることも痛感してとても悲しい気持ちになりました。

今回の研修は、一番最初の事前研修から最後の報告会まで、本当に楽しかったです。それもこれも、全て一緒に参加したメンバーのみんなと、それに協力してくださった皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。またいつか、全員でビクトリアへ行ければいいな、と思います。また、カナダにいる友達ともこれからも仲良くしていきたいです。長いようで短い3ヶ月は、忘れません。(一生とかならずととか書くと忘れる忘れるフラグになりそうなので、やめておきます。)本当にありがとうございました。

### Every failure is a step to success

盛岡市立下橋中学校

平野 彩香

「優秀賞」と言われたとき、うれしさのあまり声が出ず心の底から喜びでいっぱいになったのがつい昨日のように覚えています。

私がこの研修に応募したい!と思ったきっかけは、去年の引率について行った、前川先生から勧められたのと、去年研修に行った先輩の研修の思い出を聞いて、自分も興味を持ったのが初めてのきっかけでした。

一次選考で合格の通知が届いたときは、飛び上がってジャンプして喜んでいたことを覚えています。スピーチコンテストでは一番最後で緊張のあまりにしゃべった感覚がありませんでした。(笑)

事前研修では、ホストスクールで発表する「ホストタウン」についてのプレゼンテーションを作りました。事前研修の中で緊張がほぐれ、みんな仲良くなることが出来ました。研修で一番驚いたことは、みんなとてもフレンドリーで、ホストスクールの廊下を歩いていると、通りかかった子に、「Let's take a picture together」などと声をかけられました。このようにしゃべったことのない人でも、とてもフレンドリーに声をかけてくれて、それをきっかけに自信をもって声を掛けることが出来ました。私がこの研修で一番心に残っているのは、ハロウィンでホストスクールの友達と、研修メンバー数人で「trick or treat」と、近所を回ったことです。

この研修を終えて私は、「国際人」としての一步を踏み出すことが出来ました。じぶんから積極的にコミュニケーションをとったり、国境を越えて友情の絆を架けることができました。

今回の研修をサポートしてくださった先生、十和田さん、そして団長(ありがとうおじさん)のおかげで素晴らしい体験をすることが出来ました。また、保護者の方々、学校の先生方、あたたかい目で見守ってくださりありがとうございます。

最後に私の座右の銘を紹介します。「Every failure is a step to success」この言葉は、全ての失敗は成功へのステップという意味です。これを胸に、第二の新渡戸稲造になれるように頑張りたいです。

## 研修を終えて

### ビクトリア研修で学んだこと

盛岡市黒石野中学校

前川 千怜

私はこの研修を知った時、ぜひ参加したい！と思い応募しました。何時間もかけて仕上げた作文と、スピーチコンテストでの緊張や、研修に参加できることが決まったときの喜びはすごくはっきりと覚えています。

事前研修は、毎日が本当にあつという間でした。みんな協力してホストスクールで行うプレゼンテーションの準備をしていくなかで、研修へに期待が膨らみそれと同時に自分の英語が通じるのかという不安も大きかったです。

いよいよ待ちに待った研修当日、ビクトリアに着いて最初に思ったことは、盛岡に似ている街だということです。気温も盛岡とあまり変わらず、空気もきれいでした。ビクトリアではホームステイをしたり、ホストスクールでの学校体験をしました。ビクトリアの人は、フレンドリーで親切な人が多かったです。ホストスクールでは、同じクラスに韓国や中国の人もいたり、多国籍だったので馴染みやすかったです。授業は、内容が日本と全く違うことに驚きました。タブレットやスマホを使ってゲームをして遊んでいるのかと思っていたら、数学の授業だったり、ハロウィンの日には授業の途中で他のクラスが開催しているお化け屋敷に行ったりと、自由で楽しい学校で羨ましかったです。ホストファミリーはとても優しく、英語が聞き取れなくて困っていた時には、ゆっくりとはなしてくれたり、ジェスチャーを使ってコミュニケーションを取ろうとしてくれたことがすごく嬉しかったです。

私は、この研修で、自分が普段使っている言葉が通じる人がいない中で生活することの大変さを知りました。研修中に「もっと英語ができれば…」と思うことが何回もありました。私は、この研修を終えて、もっと英語を勉強して、智子さんやバスマスター(高橋先生)のようにペラペラな英語で外国人とコミュニケーションがとれるような人になりたいと思いました。

この研修で、こんなにも素敵な経験ができたのは、たくさんの人の支えがあったからだと思います。家族や学校の先生方、15人のメンバーや国際交流協会の方々など、たくさんの協力があったからこそ、私はたくさんのことを学ぶことができました。本当にありがとうございました。

### 伝えるという気持ちを持って

盛岡市立厨川中学校

八柳 透真

今回のビクトリア市研修は、僕にとって初めての海外でした。日本とは言語や文化も異なる所で生活するという不安もありました。そこで僕は「学校やホームステイ先でコミュニケーションをとる」という目標を立てました。僕は出発前にホストファミリーとメールのやりとりをしていました。ホストファミリーは、僕のアレルギーのことを気遣ってくれたり、「ホストスクールへの送り迎えはホストファザーがやるから安心してね」など優しいメールを送ってもらい心が温まっていました。だから会うのがとても楽しみでした。ホストスクールでホストファミリーに「Toma!」と呼ばれて、優しい笑顔に安心しました。その日は、お土産屋さんをずっと回ってくれたり、近くにある教会の中に入り、教会の事を説明してくれました。そして夜にはホストファミリーが作ってくれたパスタを食べました。そこで僕は自分からホストファミリーに話しかけようと思い、ホストマザーに「僕の父はイタリアンレストランを経営しています。」と言いました。すると、とても嬉しそうな顔をしてくれて、ホストファザーにも伝えてくれました。共通な言語で話し、互いの気持ちが通じ合うことは、素敵なことだなあと感じた瞬間でした。

ホストスクールでは、ハロウィンの日にジャックオーランタンを作りました。一緒にジャックオーランタンを作ったエイデンは、僕がかぼちゃを彫っている時、「Good job!」などと声をかけてくれました。僕も「Thank you!」と言ったり、「こんな大きなジャックオーランタン作ったことないよ!」と英語で伝えることができました。ホストスクール最終日には感謝の言葉を伝えました。挨拶を返してくれたり、うなずいて聞いてくれる子が多く、クラスメイトと写真を撮ることもできて、うれしかったです。

今回の研修を終えて今思う事は、話している内容が多少わからなくても、単語やジェスチャーを使うなどして、笑顔で気持ちを伝えることが大切だということを感じました。これからは、英語をたくさん勉強するのはもちろんですが、自分からアクションを起こし、相手に伝えるという気持ちをさらに強く持って、もう一度カナダに行きたいと思っています。



## 研修を終えて

### 可能性＝∞

盛岡市立下橋中学校  
山内 詩乃

「一番思い出に残っている事は？」私は必ず即答し  
ます。「一番なんて決められません。」

私がこの研修を通して学んだ事、それは、“繋がり”で  
す。繋がりを感じた出来事は、数多くあります。ビクトリア  
市での研修の一つである、ホストスクールの訪問では、  
本当に驚きばかりでした。しかし、日本から突然来た私  
達を何の偏見もなく、廊下ですれ違った時など声をかけ  
てくれたりと、生徒達の人柄に何度も助けられました。ま  
た、すぐに友達ができて、31日のハロウインの放課後、一  
緒に家を周ったあの思い出はお菓子一つひとつが喜び  
への変顔へと変わった瞬間でした。ホストスクールの訪  
問を通して、私は、友情とは、国や人種なんて関係ない  
と感じました。

また、友情のつながりは外国に限った事ではなく、研修  
を共にした仲間にも言えると考えます。他校の仲間とこの  
研修という場で出会い、最高の思い出を共に作れた事、  
協力して研修を終えられた事。もし、この機会が存在して  
いなかったら、もし、この研修に興味がわかず、応募しな  
かったら…。そう考えると、皆と出会えた事は、繋がりがあ  
ったからこそだと言えらると思います。

ビクトリアと盛岡の関係も新渡戸稲造さんとビクトリアと  
のつながりから始まりました。そう、すべてが繋がっていると  
実感しました。また、私は、繋がるためには勇気や挑戦  
が大切であり、可能性は無限大だと感じました。友達を  
作る事、自分の気持ちを伝える事など、例え、言語が違  
うとしても勇気を持ち話し掛けたり、行動に移すというこ  
とが繋がりのきっかけになると学びました。

今回の研修は、未来の私にとって意味のあるものだと  
思います。この研修で今まで以上に勇気や挑戦する心、  
そして可能性を広げる事ができました。

このような機会を与えて下さった全ての方々には感謝して  
います。ありがとうございました。

これからも繋がりを大切にしながら、無限大の可能性を  
信じ、色々な人とつながりながら国際的な場で活躍する  
という夢に向かって努力し続けます。

「一番思い出に残っている事は？」  
私はこれからも言い続けるでしょう。「一番なんて決めら  
れません。」

### 異国の地と一枚の紙

盛岡市立厨川中学校  
山田 愛生

学校でビクトリア市研修の紙を貰った時、「これだ!!」と  
何かインスピレーションのようなものを受けたのを今でも  
鮮明に覚えています。もともと英語や外国に興味があっ  
た僕には、そのたった1枚の紙きれが、夢への切符のよ  
うに見えました。

スピーチコンテストで自分の名前が呼ばれたときは、自  
ら掴み取った夢への嬉しさと、これからこのメンバーでう  
まくやっていけるかという不安で妙に変な気持ちになりま  
した。しかし、事前研修の回数を重ねていくにつれて、そ  
れはこれからこのメンバーでやっていける嬉しさに変わっ  
ていきました。

ビクトリアでの八日間で、僕は二つの力をつけることが  
できました。一つ目は、自主的に動く力。二つ目は、コミ  
ュニケーション力です。

まず、自主的に動く力については、これは引率してくれ  
た先生方のお陰でついたと思います。例えば、ホテルで  
の過ごし方。先生方が皆を集めて事務連絡をします。は  
い、終わり。あとは自分たちで行動するという風に言って  
くださいました。また、僕がハロウインを他のホストファミ  
リーの友達と一緒に回りたくて、そのホストファミリーに相談  
をしていた時。ある先生は、僕が拙い英語で話し合いに  
つまづいていた事に気づいていましたが、あえてあまり  
手助けしないようにして下さいました。この事によって、  
僕は自分でやりたいことのために自分で考えて行動する  
力をつけることができました。

次に、コミュニケーション力について。これは住んでい  
る国が違う人と、ジェスチャーや表情を工夫して使って  
話すことによってつきました。この二つの力は、義務教育  
が終わり、これから自分自身で進みたい道に進んでいく  
私達にとって、とても重要なものになってくると思います。

この研修に関わって下さった協会の方々、龍平先  
生、ビクトリアの皆さん、そして十五人の皆、本当にあり  
がとうございました。この経験は僕の人生にとってかけが  
えのないものになりました。そして、こうして僕が文章を書  
きながら、この研修を思い出している様に、皆も、この研  
修ことを思い出しているのがとても嬉しいです。第二十  
五回ビクトリア市研修の皆さんも、その研修を大切にす  
いてください。

そして、これだけは忘れてはならないと思います。世界  
のいたるところに、自分が出会うべき人がいる。という事  
を。

## 研修を終えて

### ”縁“が”円“になる

盛岡市立大宮中学校  
教諭 高橋 龍平

「団員の命を最優先に、無事盛岡に帰ってきたいと思っています。」最初の研修会で話したことを完遂することができ、ほっとしています。

今回の研修を通して、16人の団員のみなさんをはじめ、姉妹都市交流に尽力してくださっている方々やビクトリア市研修に関わる多くの方々と出会うことができ、とても幸せに思っています。自分自身、普段の生活では味わうことのない貴重な経験をさせていただき、関係各位の皆様にご感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

研修を振り返ると、事前研修では、十和田さん、Kayさん、Saiさんのアドバイスの下、グループの仲間と共に一生懸命にアイデアを出し合い、プレゼンテーションを創っていく姿が印象的でした。自分のパートを必死に覚えようと暗唱を繰り返し、何回も発表の練習をしました。そうして事前の準備を大切にすることが、本番の大成功につながったと思います。

現地では、ビクトリアやバンクーバーの観光地、そして研修の目的でもある盛岡にゆかりのある場所を訪問することで、ただの旅ではなく確かな「学び」のある活動になったと思います。ホスト校では、最初緊張した面持ちでクラスに入る団員がほとんどでしたが、すぐに打ち解け、数学の授業では手を挙げて発表したり、ランチを談笑しながら食べたりするなど、現地の子もたちとの交流も盛んに行うことができました。ハロウィンなど日本では味わうことのないイベントを肌で感じ、体験できたことも貴重な経験になりました。プレゼンテーションでは、どのグループも一生懸命に発表をしました。たくさんの方から素晴らしい発表だったと声をかけていただき、私自身も大変嬉しく思いました。日本の文化を発信すること。もちろん言語も大切ですが、それ以上に「伝えようとする気持ち」の大切さに気付いたと思います。

また、現地での生活を通して、物事を「伝えること」、そして異なる環境の中で「吸収すること」を体験する機会になりました。

結びに、団員のみなさんがこの研修を通して学んだこと、もしかしたら、みなさん一人ひとりの人生を変えるきっかけになるかもしれません。盛岡で、そしてビクトリアでできた「縁」。その「縁」を大切に、つながりを大切にしていってほしいと思います。「縁」を大切にする人の周りには人が集まり、「縁」が「円」になっていきます。いつかその「円」の中心で輝いているみなさんに会うことを楽しみにしています。

### Best wishes for your future life!

(公財)盛岡国際交流協会  
事務局員 十和田 智子

帰ってきて盛岡は本当にいい所だな！って、思いませんでした？やっぱり私は盛岡が大好きです。報告会まで、お陰さまで無事終了しました。一にも二にも、まず思うのは、皆さんを親御さんの元にかえすことが出来て良かったということです。今年はミサイル発射が立て続けにあり、時期的に台風の影響も、また、世界各地がテロの脅威にさらされています。昨今の海外旅行は、心配するときにがないほどです。今回の研修を安全に完了できたのは、盛岡の協会事務局のチームのサポート、団員の親御さんの御協力、ビクトリアで迎えてくださる市役所、友好協会、教育委員会、ゴードンヘッドの皆様のご協力、随行して下さった、高橋先生と櫻井社長、伊瀬谷団長の優しい労りと協力があったからです。そして、団員一人一人の自覚をもった行動も、この研修を成功に導いた要因です。(但し、パスポートは二度と忘れないでください。)

研修プログラム上、限られた4日間という事前研修内で、盛岡とビクトリアの概要、英会話、プレゼン制作、注意事項、個人スピーチの割り当てなど、盛りだくさんの内容を詰め込んでいます。これらを、どれだけの集中力で吸収できたかが試される海外研修となりますが、行ってしまえば、時差ボケになるし、英語に圧倒されるし、自分で色々しなくちゃいけないし、楽しくなってきた頃には帰らないといけないし、という大変ハードな研修であることを再認識しました。笑

今回、団員に私が伝えなかった事は、『勇気』です。この研修を乗り切った団員の皆さん、おめでとうございます。皆さんは、勇気を手に入れました。研修を経験した先輩のお話しに「英語は手段です」という言葉がありました。これから、皆さんは人生を通して、その言葉の意味を学んでいくと思います。私達は英語を学んでいるようで、実は、その向こうにある新しい何かを学んでいます。色んな国の人と話していると、日本の歴史や社会、その他もろもろの知識が必要になることにはもう気づきましたよね？だから、まんべんなく勉強しておいた方がいいです！笑

最後に、この研修に参加した団員の保護者の皆様、これからどんどん成長していく子供達の、1ページを共に過ごさせていただき、有難うございました。今後も、盛岡市のより良い国際化に尽力してまいりますので、これからも盛岡国際交流協会の応援をよろしくお願い致します。